

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月19日

【評価実施概要】

事業所番号	4071201133
法人名	有限会社 サライ
事業所名	グループホーム みんなの家
所在地 (電話番号)	福岡県福岡市西区能古324-1 (電 話)092-894-1305

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年3月11日	評価確定日	平成20年5月28日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8/8 人	常勤	8/8人, 非常勤 0/1人, 常勤換算 8/8.1人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	
	2 階建ての	1 階 ～ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	40～800 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	550 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4)利用者の概要(平成19年10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83 歳	最低 74 歳	最高 92 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	吉田内科医院、きむら歯科、南川整形外科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

能古渡船を下船し海岸沿いを潮風に吹かれながら歩いて行くと、通りすがりの方から自然に挨拶の言葉が交わされ、温かな地域の交流が感じられる。小高い所にホームが建ち三方は杉山に囲まれ、振り返ると眼前には玄海灘が広がり、海の幸山の幸に恵まれた眺望と味覚が味わえる。つくしやヨモギ等の四季の山菜摘みや野いちご取り、野生化したレモンやビワ等も豊富で子供の頃の生活を彷彿とさせる。職員トイレに入ると“トイレへ！ようこそ、お疲れではありませんか？さあ！ここから出たら！満点笑顔で頑張ってください！ナイススマイル！忘れずに！”とあり、ケアに躓いた時も気持ちを新たに切り換えて自分を振り返り、ここから出直せるようにとの気持ちを込めている。職員は笑顔を心掛け気持ちに余裕を持って、入居者と共に明るい笑い声が絶えないホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①希望により毎日でも入浴の対応をしているが、夜間の希望に対して電気を消して少し暗くする等で納得して頂き、ご希望に添えるよう今後は隣接施設の利用等も検討していきたいと考えている②入居前に制度について説明し何かあれば支援する事を伝え、地域包括支援センターに相談したり、支援について家族と相談したり、支援の方法について今後も検討を続けていきたい。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が評価の意義・活用について説明し職員が自己評価表を記入し、管理者・ケアマネジャーが一つにまとめる中で、全職員の理解の程度に差があると感じている。前回評価結果を基に施設長・管理者・ケアマネジャーで改善策を話し合い、具体策を職員に伝え皆で取り組みを続けている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	校区内の全関係機関の方々に声をかけて参加して頂き、昼食を一緒にされたり外部評価の結果を回覧している。何をしたいのか具体的に提示があれば協力出来るのではとボランティアや家族の方から意見を頂き、草むしり・草刈や散歩時の介助等をお願いしている段階である。不定期ではあるが区役所窓口を訪れた際に口頭で入居者の状況をお伝えしたり保護課や成年後見制度の活用等について相談し助言を頂いている。今後は“みんなの家新聞”等を持って、定期的に伺い情報提供を行ってきたい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	“みんなの家新聞”の中でホームでの様子をお伝えしたり、ホーム来訪時や何かある時に状況をお伝えしたり電話で報告している。ご意見・不満・苦情等を率直に言って頂けるよう、状況報告時に「何かありませんか」と繰り返し声かけし、ご意見箱の設置や無記名アンケート、家族交流の場で言うて頂けるようにしている。ご意見を頂き会議で対応策を話し合い、全家族にホームの対応策や経過説明を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の夏祭りや花火大会、校区の運動会を入居者と一緒に見学や、公民館のふれあい食事会や老人いこいの家の民謡クラブに行っている。そうめん流し・クリスマス会等の事業所行事を地域に開放したり、中学生の演奏やボランティアのオカリナ演奏・散髪に来て頂いている。地域の寄り合いに施設長の参加や町内会の一斉清掃に職員が参加したり、中学校の遠泳大会にサポートとして出ているが、入居者は地域の一員として参加は出来ない。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いろいろな環境の中で生活されていた方々と一つの家族として、入居者も職員も心からの笑顔で生活できるようにという思いを込めて、H.17.ホーム開設時に職員皆で考え『笑顔のある暮らし』という理念を作った。	○	理念に込められた思いと地域との結びつきを、明確に解り易くする為にも職員と共に話し合い、地域密着型サービスとしての理念を検討していきたいとの考えがあり、今後の取り組みに期待していきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の中味を全職員は知っているが、込められている思いがどの程度伝わっているのか不明で、月1回の職員会議や各階の担当者会議、合同会議で毎日のケアの中で気になっている事を理念に照らし合わせて話している。言葉使いや笑顔になる為にはどうしたら良いのかを常に心の中に意識するように伝え、尊敬と感謝の気持ちを忘れず入居者の立場に立ったケアと、信頼関係を築いている。	○	理念の中に込められた思いを常に伝え続けていく事が、心の中で理念を意識する事にもつながり、共有し実践に活かしていく事が出来る。今後の更なる取り組みに期待していきたい。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや花火大会、校区の運動会を入居者と一緒に見学や、公民館のふれあい食事会や老人いこいの家の民謡クラブに行っている。そうめん流し・クリスマス会等の事業所行事を地域に開放したり、中学生の演奏やボランティアのオカリナ演奏・散髪に来て頂いている。地域の寄り合いに施設長の参加や町内会の一斉清掃に職員が参加したり、中学校の遠泳大会にサポートとして出ているが、入居者は地域の一員として参加は出来ていない。	○	中学生の職場体験の受け入れを予定しており、地域の一員という意味をしっかりと捉えて、参加できる状況や参加の方法等について、職員と共に話し合いながら取り組まれる事に期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長は評価の意義を理解し現場に一任され、管理者が評価の意義・活用について説明した。各職員に自己評価表を記入して貰い一部の項目は、居合わせた職員と話し合い、管理者・ケアマネジャーが一つにまとめる等、積極的に取り組んでいるが全職員の理解の程度に差があると感じている。前回評価結果を基に施設長・管理者・ケアマネジャーで改善策を話し合い、具体策を職員に伝え皆で取り組みを続けている。	○	自己評価によってケアの振り返りにつなげられるよう、項目の理解が深められると共に、改善策も皆で検討する事で意識的に関われると考えられる。評価の意義の理解や活用法等、更なる取り組みに期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の中で関わる島内の全ての所という気持ちで、校区内の全関係機関の方々に声をかけ、自治連合会会長や民生委員、区役所の方に参加して頂き、昼食を一緒にされたり外部評価の結果を回覧している。町内の方は役員等を重複してされており日程調整が難しく、地域包括支援センターと日時調整後に案内状をお送りしている。何をしたいのか具体的に提示があれば協力出来るのではとボランティアや家族の方から意見を頂き、草むしり・草刈や散歩時の介助等をお願いしている段階である。	○	定期的開催に向けて“みんなの家新聞”で推進会議への参加呼びかけを行う等、地域の方にも出席して頂けるようにしたいと考えており、今後の更なる取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアマネジャーは不定期ではあるが、介護認定の申請で西区役所窓口を訪れた際に口頭で、入居者の状況をお伝えしたり保護課に相談している。成年後見制度の活用等も、必要に応じ相談し助言を頂いている。今後は“みんなの家新聞”等を持って、定期的に伺い情報提供を行っていききたい。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護制度についての外部研修に、管理者やケアマネジャーが参加し内部で伝達研修を行っており、職員は制度の概要や相談窓口等知っているが、深いところまで理解は出来ていない。ケアマネジャーが入居前に制度について説明し、何かあれば支援する事を伝えており、地域包括支援センターに相談したり、入居契約を通して支援について家族と相談したり、支援の方法について今後も検討を続けていきたい。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2～3ヶ月毎に発行される“みんなの家新聞”を、お送りしホームでの様子をお伝えしたり、来訪が遠のいている時や介護計画の同意を頂く際に手紙を同封している。ホーム来訪の度や何かある時には、管理者より状況をお伝えしたり電話で報告している。ホームで金銭管理をしている方は領収書や通帳のコピーをお渡ししたり、出納帳を見て頂いている。職員の異動について新聞に掲載したり、来訪時に紹介している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・不満・苦情等を率直に言ってもらえるよう、報告の際「何かありませんか」と繰り返しお聞きし、ご意見箱の設置・無記名アンケート・家族交流の場で言うて頂けるようにしている。本人の力の発揮や気持ちを汲み取って欲しい等、ご意見を頂き職員と話し合い対応策を全家族に手紙でお伝えしたり、家族交流の場で経過説明を行っている。市等の苦情・相談窓口を入居時に説明しているが、具体的な外部機関等を伝えておらず、今後は伝えていきたいと考えている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要に応じてユニット間の交替は行っているが、休みの希望に極力応じるようにしたり、職員の表情や体調を見ながら施設長が個人面談を行っている。月1回の会議では食事を楽しみながら行ったり、年に1回会社全体で職員親睦を図っている。職員アンケート等で思いを聞き取り健康管理や、仕事をし易い職場作りを目指し取り組みを始めた所である。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたり性別・年齢等で採用対象から外す等は行っておらず、茶道の得意な職員が行事の時に、入居者にお茶を点てて差し上げたり編み物や畑仕事等、好きな事を業務に活かしている。職員の社会参加やキャリアアップ等、申し入れがあれば勤務調整等、希望に応じれるようになっており、介護福祉士の受験講座の為に休み調整等を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する内部研修を行い、言葉使い・接し方・守秘義務等の周知徹底をし、会議等で常に入居者の人権を尊重する事を話している。	○	島内で開催される人権学習等に、積極的に参加すると共に市と相談しながら、ホーム内で研修を行っていききたいと考えており、今後の更なる取り組みに期待していききたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回定期的に医療面の解らない事やケアについて等、各職員が担当して勉強会を開いている。認知症介護実践者研修やレクレーション・リュウマチや褥瘡について等、研修に参加し会議の時に伝達している。施設長はその時々々の研修は職員の適性等を把握し、職員に応じた研修への参加の声をかけし参加して貰っている。長期的な目標やスキルアップについても声かけは行っているが、職員毎の研修計画として作成したものはない。	○	各職員と話しながら経験等に応じて段階的に力をつけていけるよう、個別の育成計画を立て目標を明確にする事で、自己研鑽につながっていく事にもなる。今後の取り組みに期待していききたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は同業者との交流・連携の必要性を認識し、協議会等の参加を現在検討中である。管理者研修等で知人になった方やケアマネジャーの連携で、電話・メールで日常的な情報交換や相談をしている。職員の相互訪問は未だないが、管理者・ケアマネジャーが他ホームを訪問・見学したり、研修の受け入れを行っている。	○	管理者・ケアマネジャーは相互訪問で感じた事を、他ホームで実習したり見る事で職員にも感じて欲しいと思っている。職員と話し合いながら勤務表に組み入れ、実行に向けて検討していききたいと考えており、今後の更なる取り組みに期待していききたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者が何度か訪問し顔馴染みの関係を作り、体験入居をして頂いたりしながら、徐々に馴染めるようにしている。帰宅願望がある時に盛り付けをお願いしたり、気持ちがかわるよう散歩や近くの公園迄ドライブにお誘いしたり、夜間排尿誘導の後に添い寝をして落ち着いて生活して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	戦争中の子育てのご苦労をお聞きする中で、家族の力の大きさを感じたり、調理の際に美味しく食べる下ごしらえの工夫等を教えて頂く機会を作っている。夜勤の時に「ありがとう」と言われ、疲れが吹き飛びこの仕事をして良かったという思いと、自分も引き締めなければならぬと振り返られている。業務でバタバタしていると入居者も落ち着かなくなり、気持ちがゆっくりしていると入居者も落ち着かれていたり、職員の心が入居者に映っている事を教えて貰っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で聞きとったり感じる部分や行動・表情から、思いを汲み取るようにしているが、把握できていない時があり“かみつ”等の行動について、職員で話し合う事で本人が嫌がっている事を知る事もある。職員が気持ちにゆとりを持つ事で入居者も落ち着いている等、ケアを振り返りながら思う心は通じている事を職員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の思い等を踏まえ『その人らしく暮らし続ける』為の、課題・目標は記載され『地域で暮らす』視点もケアの記載はあるが、目標等に盛り込まれていない方もいる。やさしい単語に置き直された言葉でケアの留意点の統一の為に、個別手順書が作られているが声かけで終わっている時もある。全入居者と話し合いを行い、意向等の表現が難しい方は職員間で情報交換をしながら思いの把握をしている。家族の方へ担当者会議の参加をお願いしたり、機会が少ない方は来訪時や電話でお話しし計画に反映させている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリングを行い計画に反映させているが、状態や要望の変化がある時には設定した時期の前でも、介護計画の見直しを臨機応変に行っている。特に変化がない入居者についても、毎月のカンファレンス・担当者会議で一人ひとりについてケアの確認をし、気付きやケアの変更について話している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	夜間は看護師の管理者に電話し、必要に応じて主治医に連絡したり往診に来て頂く等、医療連携体制は取れており、島内で船での救急搬送体制も整えられ、受診時や救急時に職員がつきそえている。外泊時に日程調整を行ったり、敬老会への送迎や会食会等の特別な外出支援も行っており、お寺まいり等も計画中である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望の医療機関をお聞きし以前からのかかりつけ医や、同意と納得の上で協力医療機関で受療頂いている。職員が通院介助を行っているが、医療機関の所在地や受診の時間帯によって、家族にお願いする事もある。定期受診は定時報告を行っているが、受診結果については変化がない時も速やかに報告し、家族だけで行かれた場合も、受診結果は十分把握できている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期の方針についてお話し、同意書を頂き意向の把握は出来ている。ホームで対応できる範囲について等、かかりつけ医・他関係者・職員と話し合いを行い、状況に変化があった時には繰り返し話し合いを行っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	お名前をお呼びする時に社会的背景や生活習慣等を把握し、その方の馴染まれている言葉かけをし、排尿誘導や失禁対応も「ちょっと歩きませんか」等の声かけや、情報交換によりジャージを前開き用にリフォームして、自尊心・羞恥心に配慮し自然にさりげなく排尿介助を行っている。職場以外で業務の話をしていない事を会議で伝えと共に、先輩から後輩へ厳しく伝え、個人情報が書かれたメモ類も小さく千切る、マジックで消す等、情報の漏えい防止に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	誕生日の外出時にその時にしか食べられない物を、食べて頂けるような支援をしたり、入居者が好きな事に合わせて勤務の体制を整えている。生活のリズムが取れるよう声かけ・誘導は行うが無理強いはず、それ迄の習慣・体調・気分を尊重しながら、挨拶や体操、レクリエーションに参加できるよう、職員は意識して声を掛けている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	宅配食材を利用し頂いた旬の食材や摘んだ山菜を使って一品追加したり、その時に応じて献立変更したりヨモギ団子を作ったりしている。盛り付け、下膳、食器の後片付け、テーブル拭き、お盆の日光消毒をされたり、調理の下ごしらえや味見をして頂き、主婦としての顔を見出し仕事の喜びにつながっている。職員も一緒に食卓につき必要な介助を行ったり、している。誕生会の時の外食やウッドデッキで食事したり、隣接施設でのお茶の時間を楽しんだりしている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	24時間循環風呂と個浴を供えており、隔日の入浴で希望によっては毎日でも対応し、夜間の希望に対しても、出来るだけ対応していくと常に検討を続け、電気を消して少し暗くする等の対応を行い、納得して入浴して頂いている。体調に無理のない範囲で入っている時間・湯温、順番、人によってはシャンプー・石鹸等好みに合わせて対応している。家族の協力も頂きながら温泉に行ったり、隣接施設の鉱泉風呂等も利用したいと、職員間で話し合っている段階である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の体に合わせて洋服をリフォームするのに熱中されていたり、猫の餌やりやすもうのテレビ中継を居室でゆっくりと見たり、畑作業や編み物、ホールに灰皿とライターを備え付け職員が付き添って煙草を喫っている。役割・楽しみ事の場面作りを全入居者に対して行っているが、コミュニケーションが難しい方もおり、楽しみ等を持って頂けるよう今も探し続けている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	通院やホームの行事以外に近所に散歩に行ったり、猫の餌やりの為に食後隣接施設迄歩いて行ったり、地域行事に参加している。外出が困難な方も気分転換・五感刺激の為に、戸外で過ごす時間を積極的に作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない生活が大事と考え裏口等の非常用の出口以外の、玄関等は施錠せず自由に使えるようになっている。エレベーター等も入居者が自由に使えるようになっているが、安全管理の為に鈴を付けたり落ち着かれない時には鍵を掛けている。職員が作業する場所や立つ位置を工夫したり、プライバシーの侵害や音による行動制限に配慮しながら、玄関にチャイムを付けて安全確認をしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1回災害対策について職員と話し合い、訓練の実施計画を立て夜間の火災を想定した、消防団との合同の避難訓練や地域行事としての防災訓練を行い、訓練の指導や助言を頂いている。公民館・地域の方・婦人消防団等の協力体制は整えられており、非常電話での連絡体制や定期的に派出所・消防団の巡回等がある。災害に備えレトルトご飯や乾パン等は準備されている。	○	災害時の備蓄物品や備蓄量等、職員で話し合い準備される事に期待したい。
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は業者から搬入され、管理栄養士の立てたメニューに沿って調理しているが、希望により調理法を変えたり献立を変えたり、頂いた野菜を組み入れたりその都度対応している。食事量・飲水量の把握・記録を行い一日の全体を通じた量やバランスに配慮し、飲み物の種類やおやつが選べるようになっている。カロリーの過不足や栄養の偏りを防ぐ為に定期的な体重測定・血液検査の結果に基づき、個別に応じた必要熱量を把握し、量を調整する等対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木葉柄のシールがロビーガラスに貼られ、明るさや安全面を損なう事無く、さりげない遮断効果を得ている。ロビーからは自由にデッキへの出入りが可能で、入居者が食後にお盆干しに行ったり、猫に残飯を持って行ったりして食後の一時を楽しんでいる。ウッドデッキの屋根にはよしずが渡され光量が調整され、快適に過ごせるよう配慮されている。畳の部屋に大きなテレビが掛けてあったり、ソファやブランター等で寛ぎのスペースがあったり、他ユニットでは茶ダンスや茶道具が置いてある等、ユニット毎の雰囲気が醸し出されている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や家族と相談し自宅で使っていた家具やテレビ、ご本尊様、仏壇やおしゃべり人形やぬいぐるみ等を持って来て頂いている。ご希望により畳の部屋を用意し、夜間いざりて室外に出て来られたり、ある時は排泄誘導して添い寝をする等、入居者に居心地良く感じて頂けるように工夫をしている。		